

県産材を使い家造り

紫波町と建設、林業が連携 矢巾でツアー

県建設業

協会、岩手

中央森林組

合、建設業

者などでつ

くる「いわ

て建設業*

林業架け橋

協議会」は

23日、紫波、

矢巾町内で

森林・住宅バスツアー

を実施し、参加者は県

産材のルーツを巡っ

た。

盛岡市や両町などか

ら25人が参加。矢巾町

で施工中の住宅を見学

し、県産材がふんだん



県産材で施工中の住宅を見学する参加者

に使われ、ぬくもりあふれる家の良さを実感した。

午前中は木材の伐採

地や製材所も回り、参加者は長い年月をかけて育った県産材を見て

感慨深げな様子。盛岡

市大館町のパート大向

睦子さん(67)は「柱が見える昔風の木の家が理想だと思う」と熱心に見学した。

同協議会の事業は国土交通省の「建設業と

地域の元気回復事業」

に選定され、2009年7月から11年2月までに、林業作業の効率化、

地産地消住宅の普及、木質バイオマス普及に取り組む。

平成22年10月24日(日)

岩手日報掲載